各社が誇る、現場で活躍する社員

地域に寄り添ったサービスで

ヴェオリア・ジェネッツ
大津事務所　業務主任
長宗　竜範さん

■完納までを一緒に考える

私は入社後、地元である滋賀県高島市の事務所に配属されました。そこで業務経験を積み、現所属の大津事務所へは今年4月に異動してきました。

異動前は窓口業務や開栓業務などに全般的に携わっていましたが、大津事務所では主に滞納整理業務を担っています。滞納整理とは、簡潔に言うと水道料金をお支払いいただけていないお客さまにお支払いを促す仕事です。こう言うと事務的な仕事に聞こえますが、お客さまのさまざまな事情に応じて、完納までの道を一緒に考える、とても奥が深い仕事だと私は思っています。

■感謝をいただけることも

入社前は、水道などのライフラインの安定供給は当たり前のものだと思っていました。料金徴収など、今携わっている業務についても意識したことがありませんでしたが、地域に根差した仕事に就きたいという思いから就職活動をする中で、地元に事務所のある当社を知り、入社を志しました。

一つの業務でも地域やお客さまに合わせたやり方、現在はコロナ禍での対応を考える難しさがありますが、頼れる上司や同僚に相談しながら、日々業務に当たっています。

以前、お客さまの完納に立ち会えた際に「長宗さんが担当でよかった」というお言葉をいただいたことがあります。これは一方的で事務的な対応ではいただけなかったお言葉だと思いますし、お客さまの事情やお話を聴いた上で、私の提案した内容が良い結果につながったのだと大変やりがいを感じました。

■「きくこと」を通して

日々の業務を行っていると、ライフラインを支える上で、なくてはならない業務に携わっていることを実感します。もちろん事務的な仕事もありますが、大切なのは地域に寄り添ったサービスを実践し、お客さまに気持ちよく水道をご利用いただくことです。そのためには、委託者である事業体さまと常に協力し合える関係づくりも大切です。さらにこちらが引けない一線を明確にした上で、お客さまの声に耳を傾け完納を目指していただくためには、日頃のコミュニケーションも重要です。私自身は「きくこと」を通して仕事へのやりがいを見つけたと思っています。

委託者とお客さまの間に入る立場ということもあり、判断が難しい場面もあります。自分が指導する立場になり思うことは、分からないときや困ったときには、悩まずに何でも聞いてきてほしいということです。私も入社したばかりのころは、先輩にしつこいほど質問をしていましたし、そのおかげでいろいろなことを吸収できたと思っています。上司や同僚はもちろん、お客さまや事業体職員さまとのコミュニケーションの中で成長できる、やりがいを感じられる仕事です。

造り上げる過程に心惹かれ

安部日鋼工業
大阪支店　工事部工事課　主任
梶山　仁さん

■インフラを支える

安部日鋼工業が造る上水用PCタンクは日本国内ナンバーワンのシェアを誇ります。それは当社の技術評価が高い証でもあると感じています。

私は学生時代、出身学部から漠然と土木関係の就職先を探していました。明確に土木関係の仕事に就こうと決めるきっかけの一つになったのは、当社の施工現場見学でした。偶然大学の近くに現場があり、授業の一環で見学をしたのですが、そこで受けた衝撃を今も忘れられません。インフラを支える土木建造物の大きさ、造り上げていく現場の様子に自然と心惹かれ、自分も携われたらと当社を志望しました。入社後は工事部で、先輩や職人さんたちに現場のいろはを教わりながらPCタンクやPC橋梁造りに携わり、7年目を迎えました。

■試行錯誤した日々

昨年6月からは現場トップのデビュー戦として、総社市内において容量880立方㍍の調整池築造工事を担当しました。この現場は先日竣工したばかりなのですが、無事に終えることができてほっとしています。

造ったモノは工期を終えると私たちの手から離れていきますが、その地域にとっては住民の方の生活に直結する重要な施設になります。当たり前のことですが、工事は協力業者との信頼関係や地元の方の理解の上に成り立つもので、自分一人の力では成し遂げられません。今回は自分がトップに立って現場をマネジメントしたこともあり、モノづくりにおけるコミュニケーションについては今まで以上に意識しました。命を預かる現場ですので、一貫したルールやある程度の緊張感を与える存在は必要です。自分より年長者の経験豊富な職人さんたちに対して、どのように指示を出したらいいのか考え続けた数カ月間でした。これからもこの現場の近くを通る時には、職人さんたちに励まされ、先輩からアドバイスを受けながら、試行錯誤した日々を思い出すでしょう。

■現場で学ぶ

現場はまさしく勉強の場ですので、分からないことを聞くことは決して恥ずかしいことではありません。「むしろ現場の先輩や職人さんと積極的にコミュニケーションを取るチャンスになる」と、当時の自分にもアドバイスしたいくらいです。初めのころは覚えることも多く大変ですが、一つの現場が完成するたびに得られる達成感は何事にも代えがたいものですよ。仲間として一緒に働けることを楽しみにしています。

水を仕事にする魅力、やりがい

パイオニアとしてけん引

足立建設工業
インフラ整備部　主任
浜元　龍さん

■工事のパイオニア

当社は、東京都のインフラをメインに「創意と工夫」で100年以上支え続ける建設会社です。主に上下水道工事や作業を柱として、下水道分野の下水道供用下では世界初となる管の更生工法を開発するなど、工事に携わるパイオニアとして業界をけん引しています。

このうち私は、下水道の保守作業を担当しており、発注者である都と計画の調整を図りながら、下水道施設の清掃を行う現場管理業務を進めています。都内区部には、約49万個のマンホールに加えて、約1・6万㌔㍍の下水道管路が道路下に張り巡っており、管路だけでも直線にすると日本1・3周分の長さになります。高度経済成長期に布設された施設の老朽化が問題視されている中、人々の日常生活を守る対応と水環境サービスの維持向上に努めています。

■世のため人のため

高校卒業後に入社し、今年で8年目になります。最初は下水道に対してマイナスイメージもありましたが、先輩方が率先して仕事に取り組む姿や、意義を感じた時に「利用する誰かのためにやるんだ」と思ったことが、今の自分の成長につながっています。

施設の清掃は、臭気の発生防止や下水流下機能を保つ目的として、特殊清掃車で河川周囲の伏越人孔に堆積した汚泥や土砂を取り除いていますが、時には下水道管路に詰まりがあった際にレスキュー隊のように緊急出動することもあります。スピーディーな作業が求められる中で、地域住民の方から感謝の言葉をいただいた際は、達成感と嬉しさがありました。

私たちの仕事は一人では成し得ません。協力してくれる作業者とともに、陰の立役者として東京下水道を支えられることに「誇り」を感じています。

■業界の先頭を走る

建設業界では「働き方改革」が進められており、当社でも働きやすい環境の構築に力を入れています。特に従業員の労働環境や健康を重要視する社長の意向が強いことから、有給休暇の取得奨励日や、個人負担を軽くするチームでの現場作業、健康優良企業への認定など、さまざま取組みに対する実効性を高めるとともに、業界内でも先駆けた導入を心掛けています。

私も資格の取得支援をフル活用しています。資格があれば活躍の幅も広がりますし、資格手当もあります。上を目指す人を応援してくれる社風が、資格の取得に関連する内外部を問わない講習会費用や受験費用もサポートしてくれるので重宝しています。

インフラを支えることは、まちを守ることでもあります。誰もが安心できる日常を維持するのが私たちです。きっかけは些細でも、仕事に興味を持った人と働くことができたら嬉しいです。